1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 1階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	令和1年7月18日	評価結果市町村受理日	令和元年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202148-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とグループホームみずあおいの理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践し、お客様の尊厳を守り、お客様中心のケアが出来るように職員一同日々協力しています。また、「みずあおいに来て良かった。」と思ってもらえるように新しい取り組みや企画を考え、お客様はもちろんご家族様にも喜んでもらえるように日々努めています。行事や企画の写真を撮影してご来所された方々に見てもらえるようフロアに飾ったり、なかなか会いにこない方にも日々の生活が分かるように毎月1回は写真付きのお便りを郵送して関係性を繋いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理学療法士の所長を今春迎えて併設のデイサービスではリハビリテーションに力を注ぐようになり、当事業所の家族からも「足腰を鍛えてほしい」との声があがったことから、これまで入浴を午後に替えて午前のリハビリが実践されています。共用空間には「健康促進クラブ」と銘打った利用者のリハビリ実績が掲示され、車いすで入所した人の中には「トイレやお風呂までなるべく歩こうね」と機能訓練メニューを重ね、補助具なしで歩けるようになった例もあります。職員も「次はこうしたい」と向上の精神に溢れ、「此処で働けてよかった」「家族も入れたい」と口々に言う様子からは和合によるケアサービスの充実が滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロアの壁に掲示し、職員と共有を図っている。	湖山グループ、法人、事業所と川上から流れてくる内容を礎として理念や年間目標が作成され、ゴールが一貫しています。生真面目な職員が多く、定めた目標に縛られていることもあり、そんな時は管理者から声をかけている程で、達成度が高いことが自慢です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通して地域交流を図っている。夏祭りや清掃活動などの地域行事にも可能な限り参加し、防災訓練では車椅子の使用法の講師として参加した。	ボランティアとしても事業所へ定期的に訪れる町内会副会長の依頼で、地域の防災訓練では車いすの取り扱いをレクチャーしたり、みずあおいの夏祭りには子どもたちのはしゃぐ声が満ちていて、開設13年の積み重ねが現えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設13年を経て、地域への浸透も進み、ご家族からの直接相談が増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。	例年5月には運営推進会議開催終了後にホームパーティーをおこなっていて、家族参加も増えています。本年は所長交代を発表する場ともなり、地域の福祉委員も兼務する町内会副会長も毎回出席くださり、意見交換も活発で和やかな雰囲気で開催が叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている。	来設のボランティアは静岡市のシニアサポーターの登録者も多く、事業所の運営を手助けくださっています。生活保護者について生活支援課と経過連絡を密に取り合い相談しながら進めていて、地域の事業所との協議会への参加も継続させています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。 毎月身体拘束に当てはまるケアがないか確認し身体拘束0宣言を掲げている。	昨年の法改正に基づき指針を整備したうえで「身体拘束廃止委員会」を設置し、3ヶ月に1度の委員会開催を実施しています。新入職員のプログラムも備え、「参加結果兼アンケート」にて本人の習熟度も確認していて、書面管理の精度が高いことに感心します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。改訂の際も説明会を開催してご家族の同意を得た上で進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰もが利用できる場所にご意見箱を設置し、毎月のお便りにもご意見欄を作成している。また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。	「家族が気に入っているヨーグルトを」「好きな珈琲を」「生ジュースを飲ませてやって～」といった要望が、家族、本人双方から日々入っていて、リクエストに応じています。「スリッパの消毒を～」との家族の声に速やかに対処したところ、意見箱に感謝の言葉が入っていたこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。	その日の出勤者で部署会議をおこなうため、欠席者は自主的に意見や要望をメモで提出していて、概ね全職員の意見を集めた協議ができ、業務改善につなげています。また普段から管理者に意見が寄せられ、議案にするべきものは会議にのぼっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で給与水準の引き上げに取り組んだ。また時間外の削減についても法人目標にも上げ毎月事業所の時間外分析を行っている。最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。研修に参加する職員のバックアップがあり、研修に参加しやすい環境が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域包括主催のネットワーク作りは終わってしまったが、参加者だけで交流会を続けている。交流のある施設からの見学や入居問い合わせなどの事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前にインテークの為にご本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前にインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要な情報をお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。 また誕生日の方にはプレゼントやケーキでお祝いするなどして良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなかご来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。 ホームパーティーや外出企画などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮したり、正月には馴染みの方に年賀状が届くように作成している。 誕生日に自宅に戻り、ご家族と誕生日会を実施したこともある。	職員のチームワークが良好で、「あとは任せて」と送り出せる態勢にあり、利用者を中心に据え家族と職員が取り囲んでの外出支援が定着しています。絵画展やおでん屋など本人の「行きたいところ」「やりたいこと」が実現でき、利用者の笑顔に結ばれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかに過ごしいただけるような配席にしている。 また集団でのカラオケや手作り企画などのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。	入居当初は職員皆で声をかけ、気づきは申し送りノートと介護記録に記載して共有させ、また介護記録には2表のサービス内容が反映され、モニタリングにも実っています。他にもフォトコーナーに本人の写真を掲示して会話を持つ等、早く馴染むように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落とすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。	現任併せ5名が計画作成担当者となれるという潤沢な人材も支えと成り、介護計画の仕組みや書面が整備されて円滑に廻っています。一部サービス担当者会議に家族も出席してもらえとともに要望も具体的に届いていて、「家族とともに作る介護計画書」に実っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れたり、夜間の外出やご家族も参加する外出企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者の方々にも参加してもらるように努めている。近くのスーパーや薬局などに一緒に買い物行ったり、外食することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。	16名が月2回訪問診療をおこなう協力医に変更しており、診療の場にはユニットリーダーが立ち会っています。協力医の診療、従来のかかりつけ医や専門医の通院、ホームナースの気づき等、いずれも「医療連携記録簿」に記録を残して情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネ等が病院に向向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。	24時間医師の協力体制があり、ホームナース週2日、訪問看護事業所は週1回と医療連携が手厚く、職員も経験者が多くいて安心の受入体制があります。看取りを通じて職員が成長することはこれまでの実績から明らかで、家族にも飲ばれる大切な業務として位置付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に実施した防災訓練には消防の方と連絡を取り、実際に防災訓練を見て指導していただいた。夜間想定訓練は行いが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。	年2回の法定訓練では夜間想定もおこない、また消防署職員も招いて「質問コーナー」を設け、日頃の疑問や心配な事柄を解消しています。一緒に階段を降りてみて利用者の感想を確認したり、避難の時間測定も実施され、職員が危機感をもって取組む様子が記録から伝わります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。	内部監査では薬の塗布方法などの貼り出しが脱衣スペースにあることが指摘されたものの、即是正させており、また職員の至らない点を他の職員がフォローしたり、上司に伝えることもできています。夫妻での入居が2組おり、空室がでた際に同じフロアになるように手配しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員と一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。	副菜が2~3品とデザートがつく充実した献立は大半が近くの同法人事業所からチルドの状態で当事業所に届いていて、職員が盛り付けています。月に1回は料理企画があり、おはぎや苺大福、パエリアといった楽しいメニューが提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。同じ法人の栄養士が調理した手作りの料理を届けてもらい、美味しい料理の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室の洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。	ベッド上の交換時でも排便が見えることがあれば「トイレに座って」を実践していて、手間暇を惜しまない自立支援があることが伝わります。家族自身が通う体操教室の運動を事業所内で披露くださったたり、「生ジュースを～」と職員に依頼したりと、便秘対策には家族と共に取組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。日曜日の元気体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。 入浴を楽しいものにするため入浴剤を使用して喜んでもらったこともある。	家族から寄贈された入浴剤で母の日記念にイベント風呂を実施しています。毎日バイタルを計り、医師の指導数値から外れたときは日を替えるとともに、週2回という目安を越えて「入りたい」人には看護師がバイタル等体調を鑑みて調整して、本人の意向になるべくそっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を楽しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、外出企画など、様々な機会を提供している。	年間企画に位置付けたものは「初詣」「お花見」「紅葉狩り」があり、誕生日の外出企画として「カフェランチ」や「回転寿司」にも出掛けていて、リフレッシュの機会を数多く作るともに、「パン屋さんに出かけた帰りにひ孫の顔を見に自宅に寄る」といった臨機な支援もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂き、社会参加活動を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、前月の行事企画の写真を飾ったり、塗り絵や習字等の作品も掲示するようにしている。	健康促進クラブ(リハビリの進捗をシール貼布で示したコーナー)や、氏名の入った作品掲示で有用感を高め、フェルト素材のデコレーションも季節に合わせて職員が作り替えています。大きなガラス窓には曇りもなく、戸外の子どもに手を振る利用者の姿もあります。	廊下の隅に空になった段ボール等があります。5Sの見直しをおこなうことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりと過ごすような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	ベッド、洗面台、カーテン、エアコン、クローゼット兼押入れが予め備わっていますが、洋服ハンガーに沢山吊るして使い勝手を図ったり、壁に作品を自由に貼って彩ったり、大好きなラジオを聞いたり、家族の位牌に毎日水をたむけていて、その人らしく暮らしている様子が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせて歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 1階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	令和1年7月18日	評価結果市町村受理日	令和元年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202148-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とグループホームみずあおいの理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践し、お客様の尊厳を守り、お客様中心のケアが出来るように職員一同日々協力しています。また、「みずあおいに来て良かった。」と思ってもらえるように新しい取り組みや企画を考え、お客様はもちろんご家族様にも喜んでもらえるように日々努めています。行事や企画の写真を撮影してご来所された方々に見てもらえるようフロアに飾ったり、なかなか会いにこない方にも日々の生活が分かるように毎月1回は写真付きのお便りを郵送して関係性を繋いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理学療法士の所長を今春迎えて併設のデイサービスではリハビリテーションに力を注ぐようになり、当事業所の家族からも「足腰を鍛えてほしい」との声があがったことから、これまで入浴を午後に替えて午前のリハビリが実践されています。共用空間には「健康促進クラブ」と銘打った利用者のリハビリ実績が掲示され、車いすで入所した人の中には「トイレやお風呂までなるべく歩こうね」と機能訓練メニューを重ね、補助具なしで歩けるようになった例もあります。職員も「次はこうしたい」と向上の精神に溢れ、「此処で働けてよかった」「家族も入れたい」と口々に言う様子からは和合によるケアサービスの充実が滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロアの壁に掲示し、職員と共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通して地域交流を図っている。夏祭りや清掃活動などの地域行事にも可能な限り参加し、防災訓練では車椅子の使用法の講師として参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設13年を経て、地域への浸透も進み、ご家族からの直接相談が増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。 毎月身体拘束に当てはまるケアがないか確認し身体拘束0宣言を掲げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。改訂の際も説明会を開催してご家族の同意を得た上で進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰もが利用できる場所にご意見箱を設置し、毎月のお便りにもご意見欄を作成している。また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で給与水準の引き上げに取り組んだ。また時間外の削減についても法人目標にも上げ毎月事業所の時間外分析を行っている。最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。研修に参加する職員のバックアップがあり、研修に参加しやすい環境が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域包括主催のネットワーク作りは終わってしまったが、参加者だけで交流会を続けている。交流のある施設からの見学や入居問い合わせなどの事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前にインテークの為にご本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前にインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要な情報をお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。 また誕生日の方にはプレゼントやケーキでお祝いするなどして良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなかご来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。 ホームパーティーや外出企画などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮したり、正月には馴染みの方に年賀状が届くように作成している。 誕生日に自宅に戻り、ご家族と誕生日会を実施したこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかに過ごしいただけるような配席にしている。 また集団でのカラオケや手作り企画などのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落とすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れたり、夜間の外出やご家族も参加する外出企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者の方々にも参加してもらるように努めている。近くのスーパーや薬局などに一緒に買い物行ったり、外食することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネ等が病院に出向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。 訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に実施した防災訓練には消防の方と連絡を取り、実際に防災訓練を見て指導していただいた。 夜間想定訓練は行うが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員と一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。同じ法人の栄養士が調理した手作りの料理を届けてもらい、美味しい料理の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室の洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。日曜日の元気体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。 入浴を楽しいものにするため入浴剤を使用し喜んでもらったこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体の状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物が好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を楽しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、外出企画など、様々な機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂き、社会参加活動を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、前月の行事企画の写真を飾ったり、塗り絵や習字等の作品も掲示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりとんびり過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせて歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		